

令和5年度 第2回地方独立行政法人徳島県鳴門病院評価委員会 議事録

日 時：令和5年8月22日（火） 19：00～19：25

場 所：（Web開催）

出席者：（評価委員）北畑委員、志摩委員、田中委員、土橋委員、森委員、吉田委員
（鳴門病院）森理事長、邊見院長、阿川副院長、美馬特任副院長、喜来看護局長、
竹岡事務局長、樫本次長、原田経営戦略課長

議題(1) 令和4年度に係る業務の実績に関する評価結果（案）について

・事務局から、資料1及び資料2に基づき説明

（委員長）

ただ今の事務局からの説明について、何か委員の方からご質問等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。

第1回委員会において皆さんで議論したように、令和4年度もやっぱり COVID19 の影響を非常に大きく受けているんですけども、いわゆる最終的なアウトプットである数値を見て、評価しましょうと、基準としてはどちらかといえば一昨年と同じような評価の仕方、その要因が COVID19 であるという、そんな風にしましょうという事で、先程ご説明があったように、「産科医療、小児医療の充実」に関しても、委員のご意見が2つに分かれたのですけれども、ここで非常に評価が難しかったのは、コメントの所にもあるように、数値目標が置かれていないので、その目標に達したかどうか、という判断が非常に難しく、令和3年度、令和2年度の数値との比較という形になったんですけども、先程事務局から説明があったように、S評価であった、令和3年度の数値からは、令和4年度は全部悪化しているのですけれども、A評価であった、令和2年度よりも改善している、上昇しているという事で、どちらの数値に近いかというのを見ると、令和3年度に近かったという事で、最終的にはS評価という案になっています。

その次の項目の「特色ある医療の更なる推進」に関してもやはり、委員のご意見が分かれたのですけれども、ここは数値目標が一応設定されていまして、令和3年度と比較して、令和4年度というのは、ほとんどの指標が低下しているうえに、設定した目標値にも全て達していないという事でここはB評価の方の意見を取り入れて、B評価という案になっています。

あと、資料1の3ページにある「2 医療介護連携の充実」の「(1) 地域包括ケアの推進」や、4ページにある「第5 予算収支計画及び資金計画」においては、6名中2人の委員の意見が違うところがあるのですけれども、県としては、総合的に数値を令和3年度、令和2年度とも比較して、ここに出ているような案という形になっています。いかがでしょうか。特にご意見ございませんでしょうか。

（各委員から特に意見なし）

(委員長)

はい、それでは評価結果案については、評価委員会として原案のとおり、了承という事でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

はい、ありがとうございます。ではこの、案を了承という事にさせていただきます。

今後、鳴門病院にお願いしたいのは、やはり項目によって、数値目標が無いと非常に判定が難しくてですね、前年度、前々年度との比較、またはその前とコロナ前の数値との比較になるなど、定性的な判断になってしまうところがあるので、やはり数値目標がおけるところは数値目標をおいていただきたい。さっきの産科医療、小児医療の充実のところは、恐らく前回の委員会でご説明があったように、令和3年度が病院のキャパシティを超えて、受入れて、非常に高い数値であったと。その数値を元に、何か目標を設定されていたんじゃないかと思うのですけれども、ちょっと無理な目標値になっているような部分もあったのかなと。そういう事で、数値目標がおけるものは出来るだけおいていただきたい。数年の病院の状況とか、経過とかを見て、適切な数値目標をおいていただけたらと思いますので、今後どうぞよろしくお願い致します。

本日、他の議題というのはございませんが、何か議題をお持ちの方とか、ございませんか。

(各委員から特に発言なし)

(委員長)

では、せっかくですので、全体を通して、何かご意見、ご要望などあれば各委員から、一言づつお願いしたいと思います。

(委員)

数値目標という言葉が出ていますのですけれども、この資料2の7ページに、年度評価、中期計画の数値目標という覧がありますけれども、この数値目標が多くの項目で何とか「率」という事になっている訳ですけれども、「率」というのは、分母が変わればどんどん変わっていくし、例えば1番激しいのが病床稼働率だと思うのですけれども、前も言いましたけれども、病床の数が著しく減っていたら、病床の稼働率は当然良くなるだろうと思うし、病院の力の評価としては、変わってくると思います。病院が良くなっていく事がどうなっていく事になるかという事になれば、病床を増やして、患者数を増やす事がコロナの関係で、これは難しいのかもしれませんが、今後に向けては、病床を増やして、稼働率が増えれば、見た患者数が増えるという。入院した患者数が増えるという事だから、それは評価になりますけれども、稼働病床数が少ないままで、病床稼働率が上がっても、あまり病院の発展というものには繋がらないと思うので、この例えば入院患者受入

れ、上から2番目の救急搬送受入率、これも率ですね、それから紹介率、逆紹介率、それから県内就職率、病床稼働率それから、これはちょっと僕、わからないのですけれども、下の2つの率になっておりますけれども、率というよりは、やはり「実数」が病院の力としては、病院の今後の発展に関しては、非常に重要なのではないかと思うので出来るだけ「率」と一緒に「実数」も入れるような報告書にさせていただけたらと思っております。いかがでしょうか。

(委員長)

はい、ありがとうございます。先生が仰るのは、いわゆる項目によるとは思うのですが、率だけではなくて、実数を評価しないと、正しい評価が出来ない項目があるので、そこは併記していただきたい。という事で、よろしいでしょうか。

(委員)

はい、そういう事で結構です。

(委員長)

また、鳴門病院さん、項目によってはちょっと率でないと処理出来ない部分がある。項目もあると思うのですが、併記出来るものはそういう形で併記させていただけたらと思いますので、よろしくお願い致します。

では、次の委員、いかがでしょうか。

(委員)

私は今年度が初めての評価委員会という事で、参加させていただき、評価をいたしました。最初にやはり仰ったように数値目標というのが、ある部分というのは、やはり非常に評価がしやすかったというところがありますので、先程言われたように、数値目標が、立てられるところというのはやはり、きちんと立てていただけたらいいのかなと思えました。あとは、コロナ禍の影響があったとしても、その中で、目標に向かって達成していこうという事で、頑張っていらっしゃるという状況は評価の中から読みとれましたので、今後もそのように取り組んでいただけたらなと思います。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。

では続いて、よろしくお願い致します。

(委員)

やはり、評価という事になると、数値目標というのがあると、やはり評価者としては、非常にやり易やすいのですけれども、やはりその病院の力という事になると、数値だけでは表せない部分というのはどうしてもあるんだろうなという、気もいたします。

人事の関係で、色々な人事評価システムを入れるとか、そういう事の工夫もされている事もあって、そういうところには、どういう数値目標かと言われると、ちょっと難しいの

かなと思ったりもしました。ですので、その辺は、やはり数値目標と定性的な事に対する評価も併用して、やっていく必要があるんだろうなと思います。

あとは人事評価とか、そういう教育とか色々な工夫をされているのは、非常に良いなと思って、評価しているのですけれども、医師の働き方改革の辺でまだクリア出来ていないところがある、みたいな事を聞いた気がしますので、その辺が、今後どうなのかと少し気になっております。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございます。来年始まる、医師の働き方改革は本当にすべての病院がちよっと苦勞しているというのですけれども、今後よろしくお願い致します。

では続いて、よろしくお願い致します。

(委員)

私としましては、普段の業務では、病院さんの事を伺い知るといいうのが難しく、そういった中で、計画の数値だとか、実績を、この書面の中だけで読みとらなければいけないところがあるところ、いつもちょっと難しいなところでもあって、次の計画を立てる、計画の委員会もあると思うのですけれども、その際には、この数値を設定した背景だとか、そういった、今回も話題に上がりましたとおり、産科の人員では、今の状況はこういう風であるとか、そういったご事情とかを、簡単にまた説明いただけると、どのように数値等を見れば良いのかと判断材料になるかと思うので、ご検討いただけたらと思います。

(委員長)

はい、ありがとうございます。では最後に、よろしくお願い致します。

(委員)

基本的には、今回、委員長の方で、評価の基準の方法について、始めに整理していただいて、良かったと思います。

また毎回、思うのですけれども、今回令和4年度のその病院からの報告を、病院自身の評価側に県としての評価を私どもで審査させていただいている訳ですけれども、病院の評価、自己評価というのはあくまで年度評価に対する評価なんですよね。

一方、評価委員会の検証というのは、中期目標に対する達成量、という事でちょっと違うものですから、あくまで参考にという意味なんですけれども、今、令和5年度の真ん中に入っている段階で前年度、令和4年度の評価をしていると、あくまで令和6年度が最終である、中期目標に対する達成を見なければならぬという意味では、当年度、令和5年度の年度計画がどうなっているのかというのは、知りたいなと思う時があるのですね。我々どうしても、当年度令和5年度の年度計画というのは、令和4年度中に作っているんだけれども、我々が知る事が出来るのが、令和6年度の夏になってしまって、ある意味、1年ないし、2年落ちになってしまうところもあるので、参考までに、もし次回以降ですね、当年度の年度計画もお見せいただけたら、その中期目標との関係では、体系がわかりやすいかなと思う時があります。以上です。

(委員長)

はい、ありがとうございました。

事務局の方で、今の委員の提案について、スケジュールを含めて何かありますか。

(事務局)

当年度、令和5年度の鳴門病院における年度計画につきましては、年度当初に鳴門病院からご提出いただいている計画となりますので、次回の評価委員会の際には参考資料として、お配りさせていただきたいと思います。

(委員長)

はい、ありがとうございます。

あと、連続性でいくと、第1回の時に、委員の方から、ご指摘があったように、例えば、看護師さんの研修制度を構築した年度にそのシステムを評価するのか、又は、スタートした年度にそれをやったという事で評価するのか、ないしはその結果を受けて評価をするのか、Wカウントにならないようにするにはちょっとそこも連続的に見ていく必要があるかなと思いました。

他よろしいでしょうか。色々なご意見、どうもありがとうございました。

以上